

委員会名	自己点検者（委員長名）	①当該年度の活動内容の概要 (箇条書きで良く、参考資料は不要)	②委員会内での自己評価と問題点の抽出 (箇条書きで良く、参考資料は不要)	③次年度の改善方策 (箇条書きで良く、参考資料は不要)
予算施設委員会	予算施設委員長（杉山重夫）	<p>(1)令和3年度の研究室・実習予算配分及び機器予算・修理予算の配分、並びにIR室の予算（新規）について協議し承認を得た。</p> <p>(2)施設夏期工事予定表に基づき、例年通り7-8月に工事を予定していること及び工事計画内容が報告された。</p> <p>(3)令和3年度の研究助成金及び科研費獲得褒賞金の配分を、例年通りとすることで承認した。またコロナ禍の研究スケジュールの遅れへの対応として、令和2年度分を令和3年度で受領することを認めた。更に「特定共同研究」の制度を整えるためにその規程を作成し、承認された。</p> <p>(4)令和3年度のインパクトファクター傾斜配分をこれまで通りとすることで承認された。また総説の取り扱いやリベラルアーツ系教員の著書等の業績を継続して検討することとした。</p> <p>(5)令和4年度の予算・施設委員会として概算請求する案件について協議し、令和3年度と同様の①IF傾斜配分予算②科研費獲得褒賞金及び恩田剛堂研究助成金③科研費獲得者への間接経費還元、並びに新規に④特定共同研究予算を請求することで承認した。</p> <p>(6)研究室消耗品予算からの学会年会費について協議の結果、件数の縛りなく支出を認めることとした。</p> <p>(7)機器分析センターから予算の増額申請について協議し、これを承認した。</p> <p>(8)令和4年度予算概算請求に関わる学内ヒアリングの対象案件について協議し、17案件（12部署）を対象とすることを決めた。</p> <p>(9)令和4年度施設関係予算（法定点検、中長期修繕計画、女子寮せせらぎの修繕計画など）の件が施設委員会から報告された。</p>	<p>(1)令和3年度の研究室・実習予算配分及び機器予算・修理予算の適切な配分により学務が円滑に進行された。</p> <p>(2)報告された計画通りに施設夏期工事が7-8月に行われ、教育環境が維持された。</p> <p>(3)令和4年度の研究助成金及び科研費獲得褒賞金が配分され、研究活動の一助となった。</p> <p>(4)インパクトファクター傾斜配分の見直しについては、今後継続して審議することとなった。</p> <p>(5)来年度の本委員会として概算請求する案件について協議し、前年度と同様の4案件と新たに特定共同研究予算を請求することで承認した。</p> <p>(6)研究室消耗品予算からの学会年会費については、柔軟な対応が可能となった。</p> <p>(7)機器分析センター予算の増額により、今後は点検やオーバーホールなどにより、故障を未然に防ぎ、長期間にわたり良好な状態で使用していくことができるようになった。</p> <p>(8)令和4年度予算概算請求に関わる学内ヒアリングの対象案件について協議し、17案件（12部署）を対象とすることを決めた。</p> <p>(9)令和4年度施設関係予算については、キャンパス等を良好かつ継続的に使用するために必要な額であることが認識された。</p>	<p>(1)研究室・実習予算や機器予算・修理予算の執行状況については、適切に運用されているかを注視する必要がある。</p> <p>(2)インパクトファクター傾斜配分の見直し、特に総説の取り扱いや、リベラルアーツ系教員の著書等の業績を、継続して検討することとした。</p> <p>(3)来年度から運用される特定共同研究予算については、円滑な運用が期待される。</p> <p>(4)研究室消耗品予算からの学会年会費については、柔軟な対応が可能となったが、今後の運用については無謀な扱いにならないよう、注視する必要がある。</p>